

2006年春(3月～5月)の東北地方の天候

- ・ 寡照
- ・ 気温変動が大きい

(1) 2006年春(3月～5月)の天候

春(3～5月)は低気圧や前線の影響を受けやすく、天気がぐずつくことが多かった。3月は低気圧や冬型の気圧配置の影響で東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。4月は動きの遅い寒冷低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、低温・寡照となった。5月は高気圧と低気圧が周期的に通過したが、中旬を中心に前線が本州南岸付近に停滞した影響で東南北部を中心に曇りの日が多かった。月平均気温は3月は高温、5月は平年並となったが4月は強い寒気の影響で低温となるなど気温の変動が大きかった。

3か月平均気温は東北北部で低く、東南北部で平年並。3か月間降水量は東北北部で多く、東南北部で平年並。3か月間日照時間は東北地方でかなり少ない。

3月： 低気圧や寒冷前線が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。特に中旬は東北日本海側を中心に降水量がかなり多く、日照時間がかなり少なかった。

また低気圧はたびたび日本付近で発達したため、暴風になる日が多く、各地で被害が発生した。特に20日は最大瞬間風速で八戸35.7メートル(3月として歴代1位)、大船渡34.2メートル(3月として歴代2位)を観測するなど記録的な暴風となり、屋根がめくれたり、鉄道の運休や航空便の欠航が相次いだ。21日には仙台では最大風速18.5メートル、最大瞬間風速33.9メートルを観測した。

月平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。月降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北地方で平年並。

4月： 上旬は低気圧や前線が短い周期で通過し、低気圧の通過後は北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となり、その後も動きの遅い寒冷低気圧が相次いで日本付近を通過したため気温が低い日が多く、日照時間の少ない日が多かった。さくらの開花は小名浜で4月3日と平年より5日早かったが、その他の地域では平年と同じかやや遅い開花となり、宮古は3日、八戸と青森では5日、平年より開花が遅かった。

月平均気温は東北北部でかなり低く、東南北部で低い。月降水量は東北北部で多く、東南北部で平年並。月間日照時間は東北地方でかなり少ない。

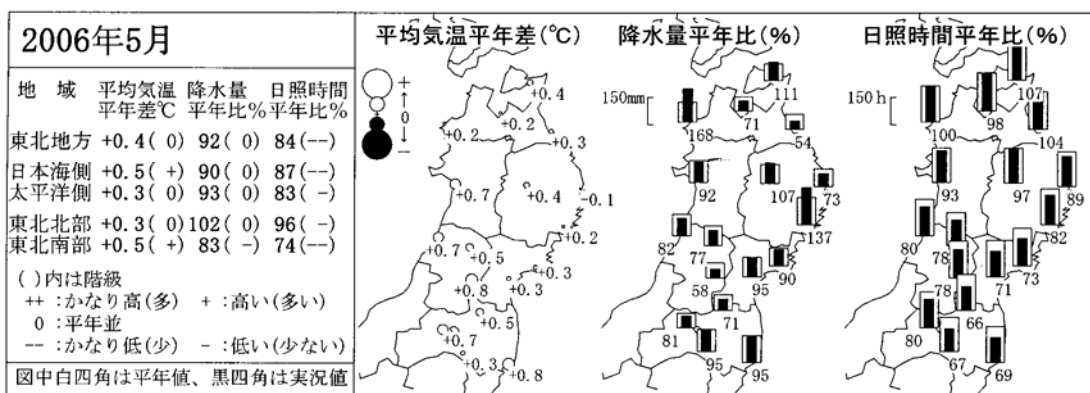
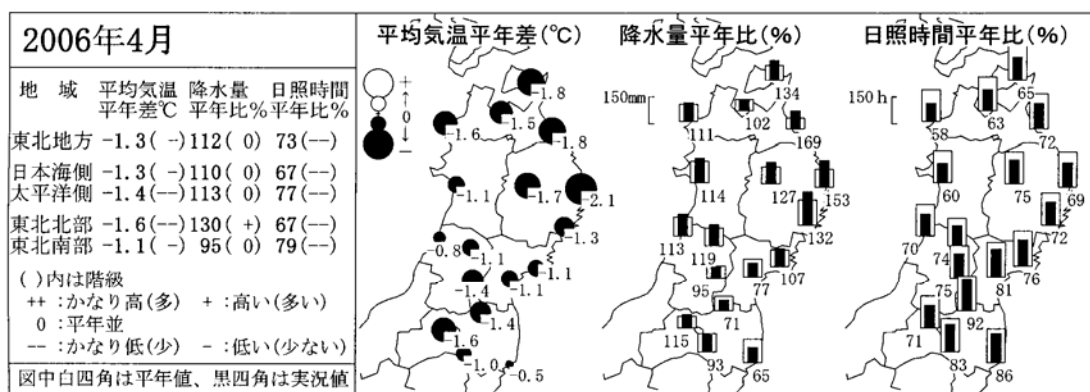
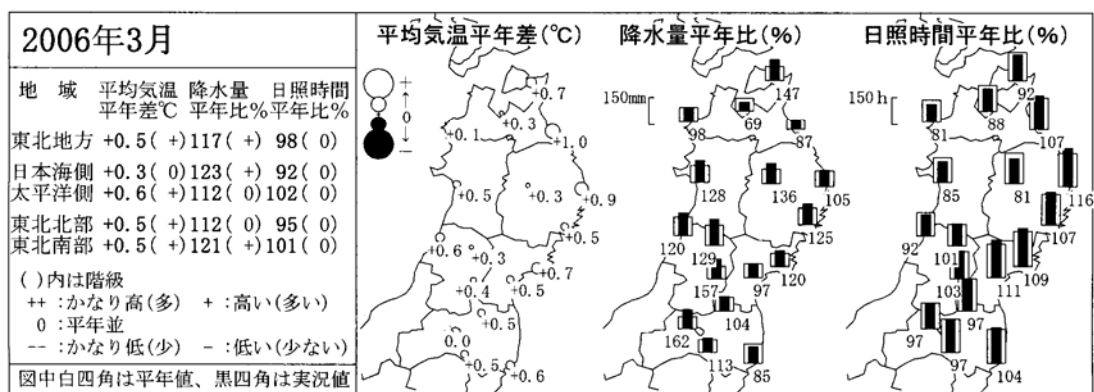
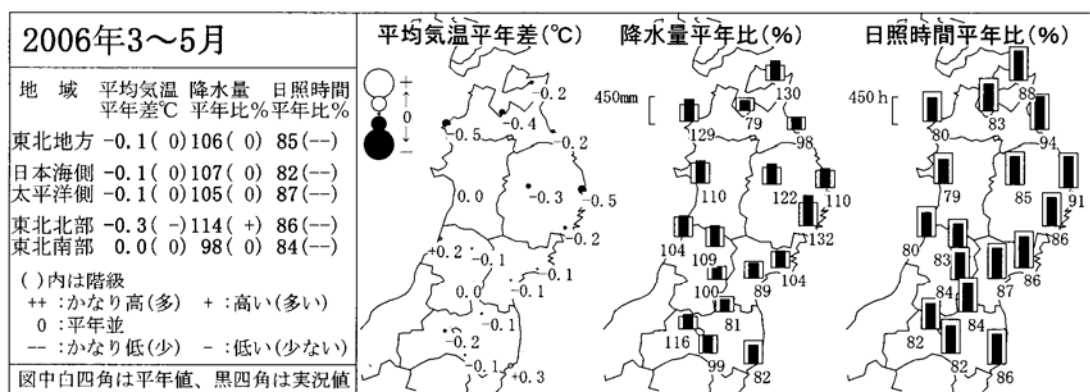
5月： 高気圧と低気圧が周期的に通過したが、日本の南の太平洋高気圧が平年に比べて強く、前線が平年よりも北上して本州南岸付近に停滞することが多かったため、東南北部を中心に寡照となった。また、上旬は高気圧が北に偏ったため、東北太平洋側では冷たく湿った東よりの風の影響を受けた。白河では月間日照時間の少ない値の1位を更新した。

月平均気温は東北北部で平年並、東南北部で高い。月降水量は東北北部で平年並、東南北部で少ない。月間日照時間は東北北部で少なく、東南北部でかなり少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971～2000年です。階級区分については、3ページ目脚注を参照して下さい。

(2) 2006年春(3月～5月)の季節・月平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注) 東北日本海側：青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方
東北太平洋側：青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方
東三北：青森県、秋田県、岩手県
東北南部：宮城県、山形県、福島県

(3) 2006 年春 (3 月～5 月) の気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	7.3	(-0.4)	—	166.0	(79)	—	35	448.2	(83)	—*
深 浦	7.5	(-0.5)	—	363.0	(129)	+	42	394.1	(80)	—*
む つ	6.7	(-0.2)	○	324.5	(129)	+	45	490.9	(88)	—*
八 戸	7.7	(-0.2)	○	190.5	(98)	○	26	541.8	(94)	—
秋 田	8.9	(0.0)	○	366.0	(110)	+	46	397.8	(79)	—*
盛 岡	7.7	(-0.3)	○	339.0	(122)	+	37	455.3	(85)	—*
大 船 渡	8.5	(-0.2)	○	502.0	(132)	+	30	467.7	(86)	—*
宮 古	7.8	(-0.5)	—	308.5	(110)	○	26	514.9	(91)	—
仙 台	9.7	(-0.1)	○	248.5	(89)	—	24	498.3	(87)	—*
石 巻	8.9	(-0.1)	○	270.5	(104)	○	32	505.1	(86)	—*
山 形	9.4	(0.0)	○	216.5	(100)	○	31	442.5	(84)	—*
新 庄	8.0	(-0.1)	○	342.5	(109)	+	48	371.1	(83)	—*
酒 田	9.8	(+0.2)	○	339.5	(104)	○	45	396.6	(80)	—*
福 島	10.8	(-0.1)	○	198.5	(81)	—	23	477.9	(84)	—*
若 松	9.2	(-0.2)	○	241.5	(116)	+	38	419.7	(82)	—*
白 河	9.3	(-0.1)	○	287.5	(99)	○	33	455.1	(82)	—*
小 名 浜	11.1	(+0.3)	○	313.0	(82)	—	31	493.1	(86)	—*

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の欄の符号は、以下のことを示す。

+:高い(多い)

○:平 年 並

—:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、階級が「高い(多い)」「低い(少ない)」となった地点のうち、1971～2000 年間の中で、高い(多い)方または低い(少ない)方から 10%に入る極端な値である場合には、階級の「+-」に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い)

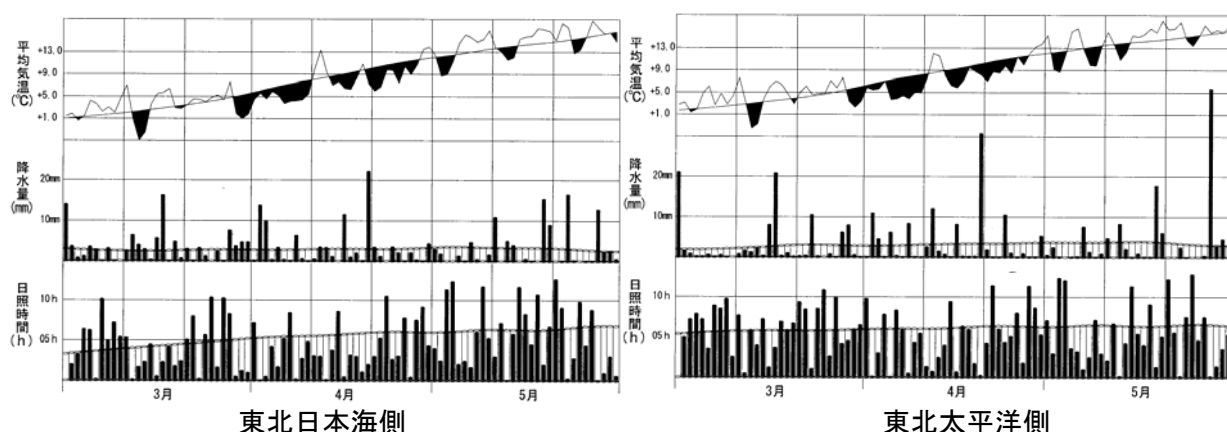
かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、3 か月別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のもと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計月数(統計に用いた、品質が十分な月別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(4) 2006 年春 (3 月～5 月) の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均 (気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱)

(5) 2006 年春 (3 月～5 月) の極値・順位更新

(3 か月平均気温、3 か月間降水量、3 か月間日照時間の 3 位以内のみ)

3 か月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1 位	酒田	396.6	80	412.4 (2000)	1937	497.8
2 位	新庄	371.1	83	365.1 (2000)	1958	448.2
	若松	419.7	82	413.0 (1992)	1954	513.7

(6) 月統計値の極値更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の 1 位のみ。)

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
4 月	大船渡	126.5	72	136.8 (1985)	1964	176.0
	深浦	100.8	58	101.3 (1947)	1940	174.7
	青森	117.8	63	133.0 (1905)	1897	187.3
	むつ	126.5	65	147.8 (1949)	1935	193.8
	八戸	139.9	72	152.6 (1992)	1937	194.3
	秋田	104.6	60	123.2 (1989)	1899	175.0
	宮古	133.4	69	136.9 (1903)	1902	192.3
	酒田	121.5	70	123.0 (1997)	1937	173.1
5 月	白河	125.4	67	126.0 (1963)	1940	188.4

(7) 2006 年のさくらの開花・満開

東北地方の桜の開花状況 2006年

(統計期間:1953年～:平年値は1971年～2000年)

観測地点	開 花 日					満 開 日				
	今年 (2006)	平年値	昨年 (2005)	最早/起年	最晩/起年	今年 (2006)	平年値	昨年 (2005)	最早/起年	最晩/起年
青 森	5.01	4.26	4.29	4.14/2002	5.11/1984	5.06	5.01	5.02	4.16/2002	5.18/1984
八 戸	4.29	4.24	4.27	4.12/1990	5.18/1984	5.02	4.28	4.29	4.16/2002	5.23/1984
盛 岡	4.24	4.23	4.23	4.11/2002	5.06/1984	4.30	4.27	4.27	4.16/2002	5.09/1984
宮 古	4.23	4.20	4.18	4.08/2002	5.07/1984	4.28	4.25	4.24	4.13/2002	5.19/1984
仙 台	4.13	4.12	4.14	3.29/2002	4.28/1984	4.18	4.18	4.17	4.03/2002	5.03/1984
秋 田	4.21	4.19	4.24	4.07/2002	4.30/1984	4.26	4.24	4.28	4.12/2002	5.08/1965
山 形	4.18	4.17	4.19	4.03/2002	4.29/1984	4.23	4.21	4.23	4.06/2002	5.04/1984
酒 田	4.16	4.16	4.19	4.04/2002	4.27/1984	4.21	4.20	4.25	4.08/2002	5.02/1965
福 島	4.12	4.11	4.11	3.29/2002	4.25/1984	4.15	4.15	4.16	4.02/2002	4.28/1984
小名浜	4.03	4.08	4.10	3.25/2002	4.25/1984	4.11	4.14	4.16	4.01/2002	4.29/1984
深 浦	---	4.26	---	4.13/1990	5.07/1984	---	5.01	---	4.20/1990	5.15/1984
む つ	---	4.29	---	4.19/1989	5.20/1984	---	5.03	---	4.22/1989	5.25/1984
大船渡	---	4.18	---	4.09/1989	5.01/1984	---	4.23	---	4.14/1990	5.07/1984
石 巻	---	4.18	---	4.07/1989	5.03/1984	---	4.22	---	4.12/1990	5.06/1984
新 庄	---	4.23	---	4.13/1990	5.06/1984	---	4.27	---	4.17/1990	5.11/1984
若 松	---	4.16	---	4.07/1989	4.28/1984	---	4.21	---	4.11/1989	5.05/1965
白 河	---	4.15	---	4.06/1954	4.28/1984	---	4.20	---	4.10/1990	5.02/1984

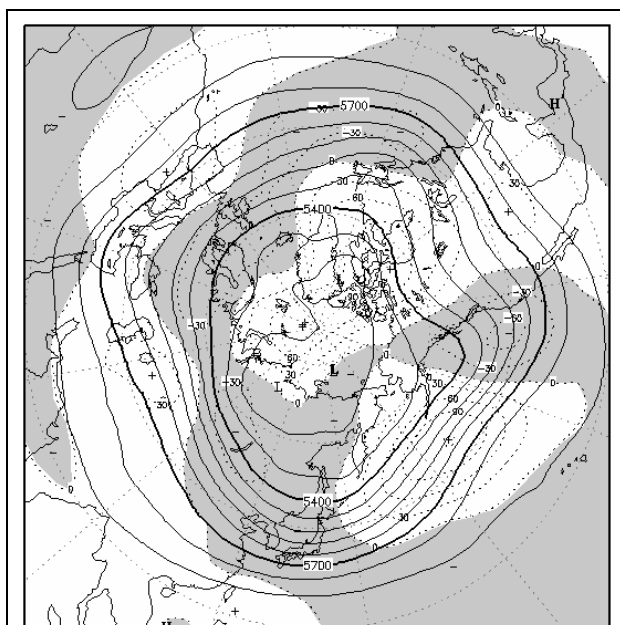
深浦以下の「最早」と「最晩」は1996年まで

深浦以下の「平年値」は1971年から観測終了年までの平均値を使用している

開花: 標本木が5～6輪開花した状態

満開: 標本木全体のつぼみの80%以上が開花した状態

(8) 北半球の大気の流れ (3 月～5 月)



3 月～5 月の平均 500hPa 高度・平年偏差図

実線は高度 (m)、間隔 60m。破線は偏差 (m)、間隔 30m。陰影部は負偏差域。

3 月～5 月の平均 500hPa 高度を見ると、極付近からカナダにかけての高緯度で正偏差（暖気に対応）、シベリアから日本付近や北米大陸、大西洋、ヨーロッパ東部など中緯度で負偏差（寒気に対応）となり、極の寒気が中緯度に南下しやすかった。ただし、日本付近の負偏差は弱く、太平洋中部や中国南部から東シナ海は正偏差となった。3 月は日本の東の太平洋中部で正偏差が強く、持続的な寒気の流入はなかったが、4 月はフィリピン付近の活発な対流活動の影響もあり、北日本を中心に強い寒気が南下した。5 月は太平洋高気圧が強まり日本付近は正偏差となって全国的に気温は高かったが、前線は平年に比べ北上し低気圧や前線の影響を受けやすかった。

(9) 4月・5月の寡照の原因

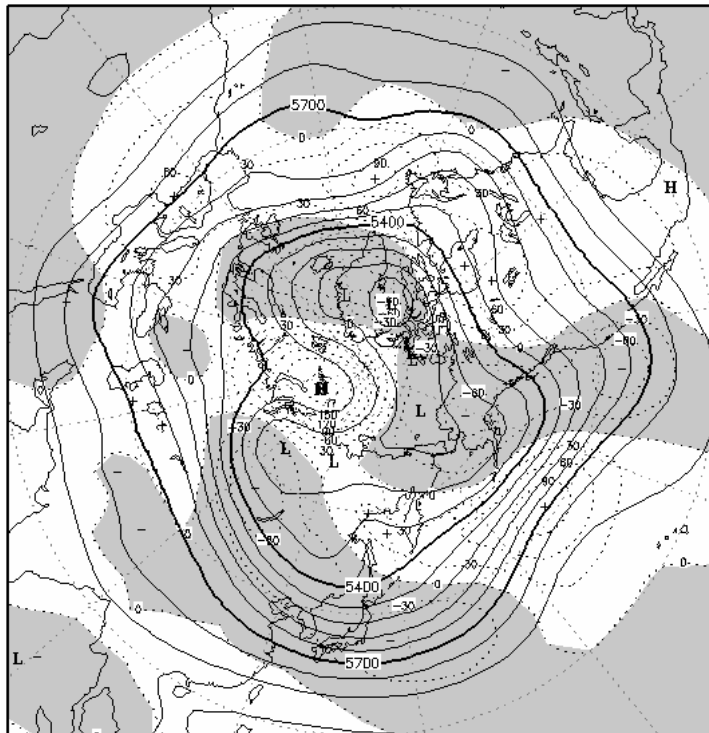


図1 4月の月平均500hPa高度
実線は等高度線、間隔 60m
破線は平年差、間隔 30m
陰影部は、負偏差（平年より高度が低い）を示す

4月の月平均500hPa高度（図1）は、ユーラシア大陸東部から日本付近にかけて負偏差となっており、日本付近にはシベリア方面から寒気が断続的に南下した。

一方、オホーツク海付近から北太平洋中部にかけては正偏差となっており、この付近では高気圧が発達しやすい（特に中旬以降）。この高気圧にブロックされて、日本付近を通る低気圧は、動きが遅くなるが多かった。

4月の月平均地上天気図（図2）では、日本の南海上とサハリンの北は高気圧となっているが、日本付近は相対的に気圧の低いエリアになっており、日本付近が気圧の谷に入ることが多かったことを示している。

このように、動きの遅い低気圧や寒気が相次いで日本付近を通過したため、東北地方は、日照時間が少なく、気温の低い状態が続いた。

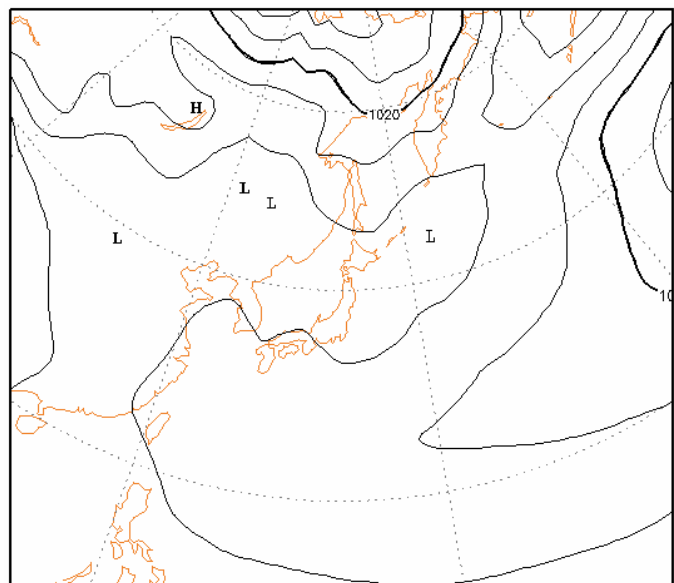


図2 4月の月平均地上天気図
実線は等圧線、間隔 4hPa

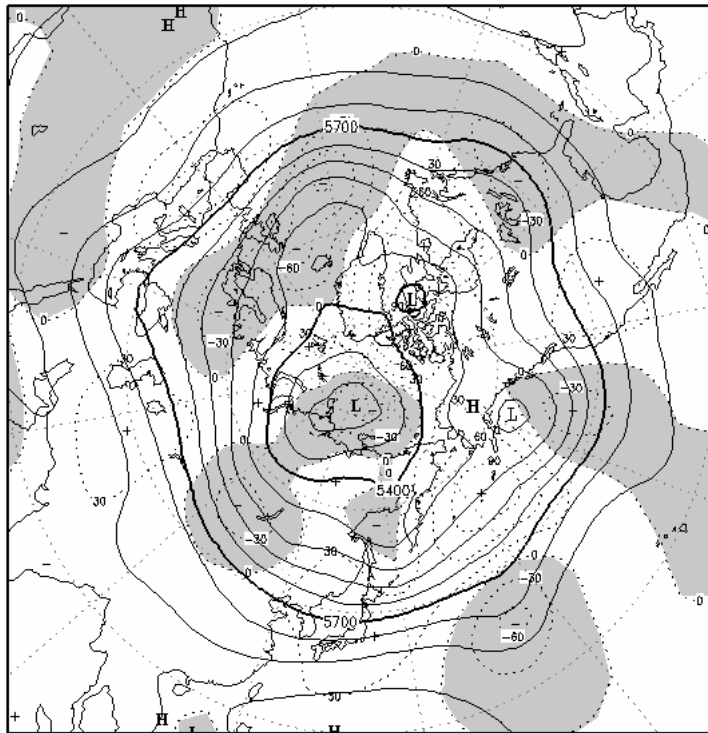


図3 5月の月平均500hPa高度
実線は等高度線、間隔 60m
破線は平年差、間隔 30m
陰影部は、負偏差（平年より高度が低い）を示す

5月の月平均500hPa高度（図3）を見ると、日本の東海上に中心を持つ正偏差がアリューシャン付近まで伸びる。5月の月平均地上天気図（図4）を見ると、太平洋高気圧が平年より北の日本の南東海上に張り出し、前線帯を平年より北上させることを示し、日本の南岸から本州付近に前線が停滞することを表している。このため、東北南部では前線や低気圧の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなった。

太平洋高気圧が日本の南東海上に張り出した要因としては、西部太平洋熱帯域で対流活動が活発であったことで高気圧が平年より北で強まったこと、上空の大気の流れが、日本の南東海上で高気圧を強めるように蛇行したことが考えられる。

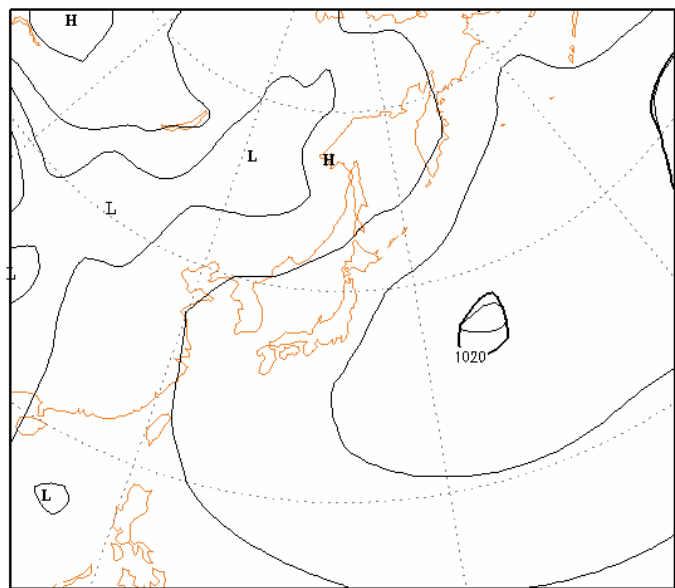
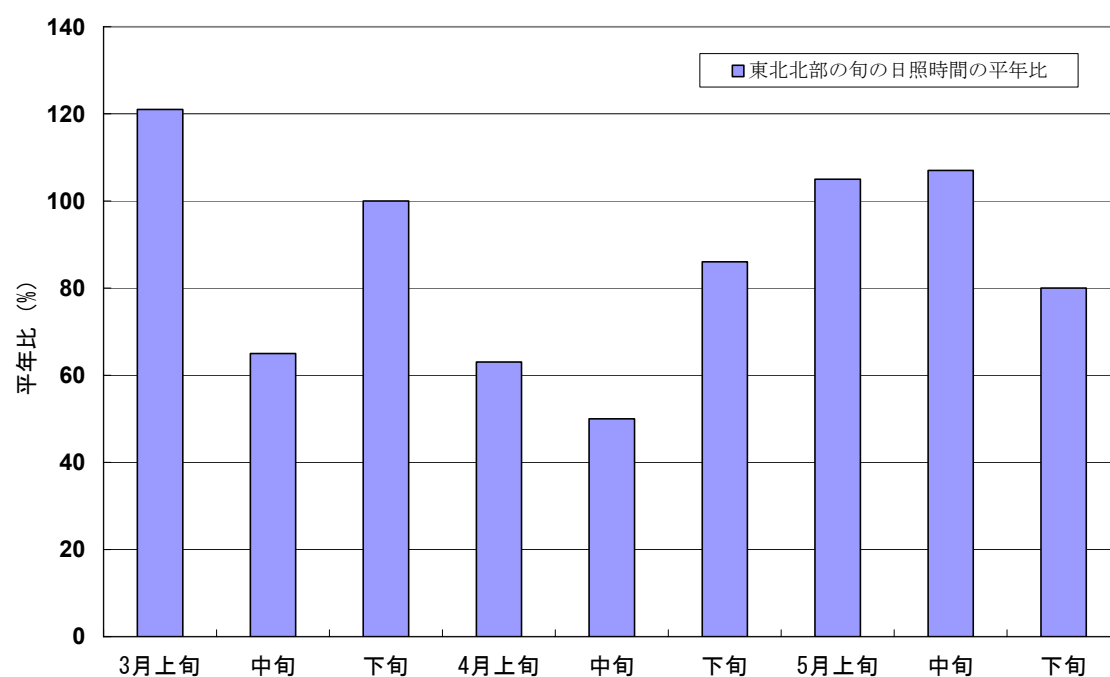
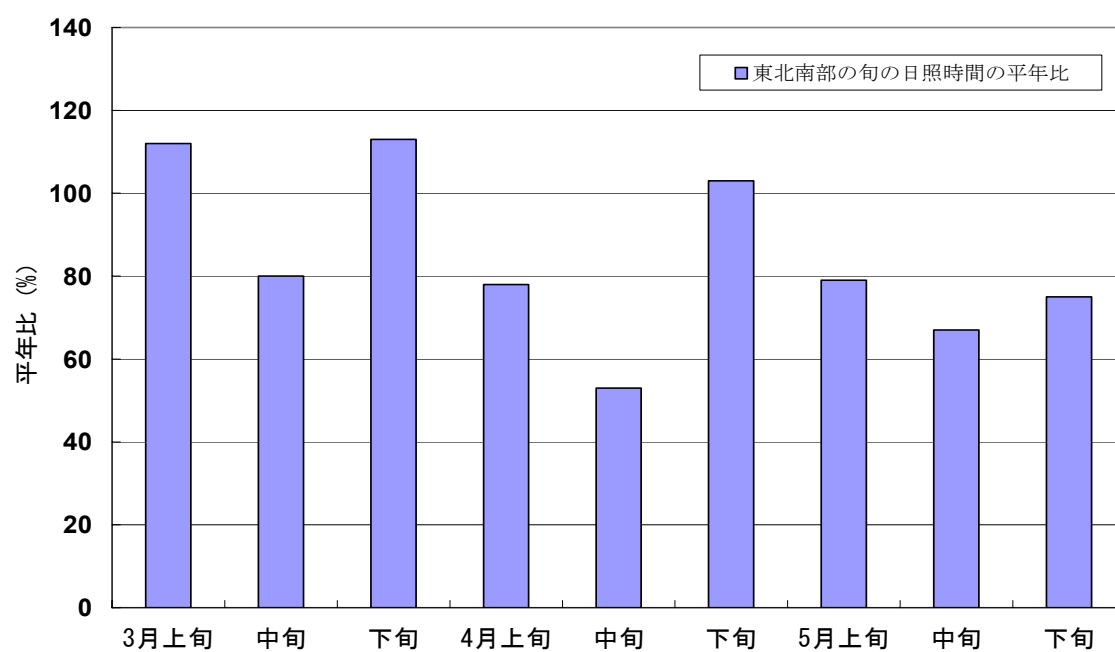


図4 5月の月平均地上天気図
実線は等圧線、間隔 4hPa

(1 0) 東北地方における旬合計の日照時間の平年比の推移



東北北部



東北南部